

ハッピー通信



2024年7月16日発行
24-29号
(<http://www.jremnant.com/>)

現場から（最近のニュースから）

家庭の問題



もうすぐ夏休みです。子どもが家にいるようになると、家事やすることが増えて困るという声も聞かれます。家庭の事情はそれぞれですが、夏休みが理由ではなく、もともとあった問題が表面化されるということでしょう。そのように複雑な問題を抱える家庭について、経営学者が見た視線から語っている『世界は経営でできている』

（岩尾俊兵著）から抜粋した記事がありました。

夫婦喧嘩が絶えない、親子関係が良好でない、兄弟同士でいがみ合っているなど家庭内に紛争を引き起こす要因は複数あります。また、家庭内での人間関係は、夫と妻、父と息子、父と娘、母と息子、母と娘、兄と弟、兄と妹、姉と弟、姉と妹……など複線化しているのだから、その数だけ紛争の種があるのは当然だ(祖父母や親戚が入ると、この組み合わせはさらに入り組んでいく)と、言われています。その中で、夫婦間のもめ事が起る原因の一つについて書かれています。

岩尾氏によると、夫婦の争いの原因是、夫が妻に母代わりを期待しているからだと言われます。男は独立するまでは母子関係にどっぷりと依存しているということです。実母を亡くした場合も母代わりの依存対象が存在することがほとんどだと言われます。そして、母子関係は基本的に「私の子はいい子」の発想が強く(反対に父子関係は「いい子は私の子」という志向が強い)、子というだけできさまざまに世話を焼いてもらえるということです。基本的には、子でいること自体が母への価値提供=幸せの源泉になっているため、子は家庭内で相手を満足させる考えを持つ必要がないということです。ところが、男は結婚を機に依存的な母子関係を断ち切ります。断ち切れない人は「マザコン野郎」などと全女性から断罪/百叩きされる憂き目にあってしまうということです。このとき依存的な母子関係を断ち切って夫婦関係に注力しようとする真面目な夫ほど、こうして断ち切って/失ってしまった母子関係を妻に求め始めるということです。これは夫側のことで、妻も夫に求めることはあるので、そこで、ぶつかって争いになってしまふということです。(7月16日現代ビジネス<意外と知らない、「幸福な家庭」と「不幸な家庭」の決定的な違い>より)

もちろん、これだけが原因ではないでしょう。ただ、すべての人は、人に対して「こうあってほしい」ということを持っています。その自分の願う像と違う場合、相手に自分の考えを押し付けてしまう場合と、相手を受け入れて自分の中で処理する場合に分かれるでしょう。押し付け合うと争いになります。自分で処理する場合は、どこかで発散するか、その場から消えるかしないと、いつか自分で抑えられない状態になってしまいます。もともと自分が持っている「こうあってほしい」という基準がある以上、どうしようもありません。では、このように自分が思うことが正しいという考えは、どこから出て来ているのかご存じでしょうか。生まれ育ちで学んで来たことだけではなく、人はみんな根底に「自分が正しい。他の人は自分の願うように動いてほしい」という考えを持っているのです。その考えがどこから始まっているのか、また、それゆえ起こる問題は何か、そして、その解決はあるのかについて、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていいくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出しができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください